地域活性化への真剣な取り組み

先の参院選でわが党が惨敗した原因の一つに、地域間格差に対する地方の反発が挙げられています。しかし、政府・与党が地方再生、地域活性化策を置き去りにしてきたわけではありません。前党地域再生調査会長の村上誠一郎衆院議員は、全国を遊説し、わが党がいかに地方再生、地域活性化に力を入れているかを力説してきた〝地域再生の伝道師〟です。東京都在住の20代の主婦と、60代の自営業者に、村上議員が地域活性化策について熱く語りました。

地域活性化策について熱く語る村上誠一郎衆院議員（中央）と、話を聞く増田文明さん（右）、畠山美保さん（左）

都市再生・中心市街地活性化・構造改革特区・地域再生・市場化テスト――の5本の柱

増田文明　村上先生は自民党地域再生調査会長として、地域活性化策に取り組んでこられたそうですが、この仕事にかかわるようになった経緯を教えてください。

村上誠一郎衆院議員　私は小泉内閣のとき、内閣府特命担当大臣として行政改革、地域再生、構造改革特区、規制改革などを担当しました。これが直接のきっかけです。

構造改革は国際競争力を維持するためには、避けて通れない道でした。

畠山美保　先の参院選で自民党が負けた原因の一つは、地域間格差の問題で地方が反発したからだと言われています。自民党はどのような地域活性化策を推進してきたのですか。

村上　地域活性化策には、①都市再生②中心市街地活性化③構造改革特区④地域再生⑤市場化テストの5本の柱があります。ミニチュアと いうのが、地域活性化策の狙いです。

畠山美保さん

地域活性化策にはさまざまな成功例があるようですね

増田　地域活性化策には、さまざまな成功例があるようですね。

村上　広島県呉市に戦艦大和の十分の一のミニチュアが展示されている「大和ミュージアム」があります。ミニチュアといっても、本物の全長が二百六十三㍍ですから、二十六㍍もあり、二十五㍍プールより大きい。このほか、いろんな戦艦のミニチュアとか、ゼロ戦や人間魚雷「回天」、特殊潜航艇「海龍」の実物が展示されています。さらに一階には呉の歴史が展示されており、三階には宇宙戦艦ヤマト関連の資料が展示されています。つまり、老若男女の世代にもアピールする施設です。

この「大和ミュージアム」は現在館長を務めている市役所の一職員が、十年がかりで苦労して集めた資料を基に造られたものです。戦艦大和のミニチュアも、彼が探し出した実物の設計図を基に製作されたものです。

私も大臣のときに見学に行きましたが、一カ月で二十万人の見学者が来られたと言っていました。この「大和ミュージアム」は地域活性化の代表的な成功例です。

畠山　「大和ミュージアム」がこれだけ成功した要因は何ですか。

村上　従来、地域活性化と言うと、国から予算を引っ張ってきて、箱物を建てるというイメージがありましたが、そうではなく、その地域の住民がその地域の特性を引き出し、活性化策を推進すれば、成功するわけです。「大和ミュージアム」はその象徴です。たった二人の職員が、コツコツと愚直にやってきたことが、市の活性化につながったわけです。

増田　ボトムアップ式と言いますか、これは明らかに従来のやり方とは違いますね。

村上　従来なら国が補助金や交付金を付け、道路や橋や箱物を造っていましたから、地方は何も考える必要はなかった。

しかし、今の活性化策は、われわれが示したさまざまなメニューやツール（道具）を使って、それぞれの地域のリーダーが、地域の特性を考えながら、具体的な活性化プランを立案し、地道に自分たちで作っていく必要があるわけです。

増田文明さん

地域活性化策にチャレンジしてきた地域が成功しています。

畠山　地域の特性を生かした活性化プランに対して、国が資金面でも支援するわけですね。

村上　そういうことです。活性化に向けて頑張っている地域を支援する「頑張る地方応援プログラム」という施策があります。この中で、交付金や経費支援によって、活性化プロジェクトを支援しています。例えば、今度の選挙は年金の負担と給付の問題と、地域間格差の問題が争点になると思っていました。

マスコミ報道でも、地域間格差の深刻化が選挙に影響を及ぼすと書いてあったのが印象に残っていました。だから、わが党はこんなに緻密な地域活性化策を進めていますよ、ということをもっと強く訴えるべきだったのです。

化策の勉強会や、説明会なりを行うべきだ、それが無理なら、衆院の三百小選挙区ごとにそれをやるべきだと考えていましたが、私一人では全国十数カ所を回るのが精一杯でした。いずれにせよ、候補者自身が、わが党が地域間格差の問題に真面目に取り組んでいることを、もっと真剣に訴えるべきでした。

「特区」を作ったり規制緩和すれば無駄が省けて活性化が実現しますね

増田　構造改革特区でも成功している例が多いようですね。

村上　例えば、愛知県豊橋市には国際自動車特区があります。ここには輸入自動車の整備工場があり、全世界からフォルクスワーゲン、BMW、ベンツなどの輸入自動車が何万台も集まります。従来は、回送運転時に一台一台、車のナンバープレートに仮ナンバーを付けていましたが、それをプラスチック製の仮ナンバーをフロントガラスに張るだけで、港から整備工場まで運ぶことができるようにしました。これによって取り付け時間、費用、労力が大幅に削減されました。まさに〝コロンブスの卵〟で、やってみれば簡単なことですよ。

畠山　特区を作ったり、ちょっとした規制緩和を行えば、莫大な無駄が省かれ、効率化、活性化が実現するのですね。

村上　埼玉県草加市からは「教室天井特区」の申請がありました。従来、教室の天井の高さは三㍍に決まっていました。しかし、日本よりも体格の良い米国や豪州は二㍍七十㌢で、日本より三十㌢低いのです。

米国並みに天井の高さを三十㌢低くすれば、例えば四階建てで二㍍低くて済み、一校当たり八千万円安く建てられるわけです。

私が調べたところ、校舎の天井の高さを三㍍にするというのは、明治時代の文部省省令で決められたものでした。そんなに古い省令にこだわることはないと、一気に全国展開し、二㍍七十㌢にしました。ある地域の特区で規制緩和して成功したものは、積極的に全国展開すればいいのです。

増田　地域活性化策によって、大幅なコストダウンができれば、一石二鳥ですね。

村上　私が大臣のときに付け加えた施策の一つに、市場化テストがあります。これは、公的サービスを民間に移譲する場合、明確された成果を挙げるかどうかを試すために行われる官民競争入札制度のことです。これは米国のインディアナポリスの市長が推進した政策です。前市長の時代には市が行っていた仕事を削減し、民間に委託することによって、住民税などを引き下げました。

私の地元の愛媛のある市には十五校あり、これまでは一校区ごとに学校給食センターがありました。しかし、これではコストがかかるというので、市は官民の競争入札を行い、十五年がかりで民間委託にしました。従来給食センターで働いていた市の職員は、引き継いだ民間企業に人員配置し、相当のコストダウンに成功しています。

自らが率先してプログラムを作り、地域を愛する人材こそ、手こなってまし、

ところもあり、新しい活性化策を受け入れることができない地域もあるのではないですか。

村上　あります。しかし、これからは「自主・自立・自考」で、地域の特性を生かしながら、自らが率先してプログラムを作り、活性化を図っていかなければ駄目です。

最近の地方には若者が少なくなりましたから、難しい面もあります。しかし、誰かがやらなければ地域は助からない。地方の若者も、都会に出ることだけが人生ではない。生まれ育ったところに一生住んで、その地域のために働くのも、立派な人生ですよ。

ソーシャル・キャピタルと言っていますが、地域の担い手を積極的に支援するプログラムも作っています。若い人に地域活性化に積極的にチャレンジしてほしいですね。地域活性化には、その地域に根差した〝シャバ感覚〟が欠かせない。その地域の人も理解してくれると思います。村上先生は直言するタイプの政治家とお見受けしました。ストレート過ぎることはあってもいい、こういう政治家に活躍してもらいたいと思います。

それぞれの地域には必ず〝宝〟がある「まちづくり交付金」はNPOなどにも出す

増田　地域活性化で重要なことは、それぞれの地域が、それぞれの特徴を生かして、「自主・自立・自考」でチャレンジすることです。それぞれの地域には、必ず〝宝〟があります。自分たちの頭で考え、プログラムを作って、愚直に支援を手厚くということです。

「まちづくり交付金」です。従来の交付金は市町村に出されていましたが、これはNPOのような民間にも出します。決してばらまきではありません。これまでのような補助金の一律配分はないが、頑張っているところに支援を手厚くということです。

クリックを終えて

増田文明さん　自民党にこれほど詳細な地域活性化プログラムがあったことを初めて知り、もっと国民にアピールすれば良かったのにと思いました。自民党は決して地方を切り捨てていないことが、よく分かりました。300の小選挙区で出身議員が地域活性化策を真摯に説明すれば、地域の人も理解してくれると思います。村上先生は直言するタイプの政治家とお見受けしました。ストレート過ぎることはあっても、こういう政治家に活躍してもらいたいと思います。

畠山美保さん　「自主・自立・自考」という言葉が、とても印象に残りました。政治がこれだけのプログラムを作り、手を差し伸べているわけですから、地域も特性を生かしながら、地域を愛する人たちが担い手となって、国とともに活性化に取り組んでいく必要があると実感しました。村上先生の言葉の端々から、国民、地域の人たちのために頑張っているという気概が伝わってきて、感動しました。私たちのニーズを政治に取り込んでくださる政治家だと感じました。

地域活性化策にはさまざまな成功例があるようですね

増田文明さん

自らが率先してプログラムを作り、地域を愛する人材こそ、手こなってまし、

都市再生・中心市街地活性化・構造改革特区・地域再生・市場化テスト――の5本の柱

「特区」を作ったり規制緩和すれば無駄が省けて活性化が実現しますね

それぞれの地域には必ず〝宝〟がある「まちづくり交付金」はNPOなどにも出す

クリックを終えて